

# 『オオジシギ』として

～埼玉県・クイーンズランド州スカラシップを通して～

南出 美裕

## 1. はじめに

この度、クイーンズランド州スカラシッププログラムを通じ、クイーンズランド州に派遣していただきました 南出美裕と申します。

日本での生活とは違う点がたくさんあり、毎日新鮮な気持ちで過ごしました。私は今回が初めての海外で、不安になることもありました。2週間弱の留学生活を楽しむことができました。今回のプログラムをサポートしてくださった埼玉県国際課の方、一緒に留学期間を過ごしたスカラシップ生、両親、現地の高校の皆さんをはじめすべての関係者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

そこで今回、私がこのプログラムを通じて学んだことを紹介させていただきます。

## 2. Yeppoon について

Yeppoon はオーストラリアのクイーンズランド州にある海岸沿いの暖かい気候の町です。私たちが滞在した 7 月～8 月は冬に当たりますが、朝晩は冷えるものの、昼間は半袖で過ごすことができるほどの気温でした。私が Yeppoon で印象に残ったことは地元の人々がとてもフレンドリーだったことです。初めましての人でも気さくに話しかけたり、簡単な挨拶を交わしたりなどが多く見受けられました。日本ではなかなか見ることのない行動だったので驚きました。

さらに、Yeppoon は海が近く Yeppoon Main Beach というビーチがあります。自然も多く海だけでなく、山や川もあります。そのため、毎日綺麗な景色を見ることができました。



### 3. Yeppoon State High School での生活

私は約2週間、月曜日から金曜日までは例外の予定を除いては Yeppoon State High School に通学していました。日本の高校とは授業時間や授業数も違い、70分の授業が4限まであり2限と3限、3限と4限の間にそれぞれ40分と30分の休み時間がありました。毎日、バディーという日本語クラスの生徒が日本人1人につき2人ほどつき、そのバディーの授業に参加するという形を取っていただきました。お昼ご飯は毎日バディーと一緒に食べました。初めは現地の大勢の生徒に囲まれて緊張してうまく話すことができませんでした。しかし、自分から積極的に話しかけることを心がけたことで会話できる様になりました。英語でのコミュニケーションを学ぶことができました。

また、私が実際に授業を受けてみて感じたことは、生徒の自由と主体性を尊重しているということです。ほとんどの授業は挙手制ではなく、思ったことがあれば先生と対話するように発言をする、といった形を取っていたり、わからないことがあれば話し合いながら解決したり、といった形で進められ、長い間日本の教育を受けてきた私にとってはとても新鮮なものでした。日本人が想像するような厳しい「校則」というものは存在しないため、個々のアイデンティティを尊重しているのがとても素晴らしいと思いました。そのため日本の学校は、とてもルールに縛られているのだな、と改めて実感しました。

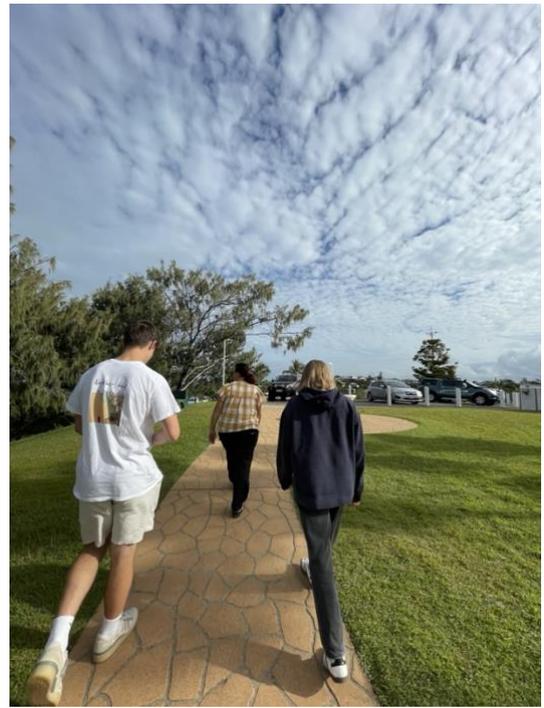


#### 4. ホームステイについて

私は今回の留学で第二の家族ができました。

私のホームステイファミリーはファザー、マザー、シスター、ドイツからの短期留学生でした。夕ご飯の時にはその日にあったたわいもない会話をし、休日はさまざまところに連れて行ってくれました。とても優しくて親切なファミリーでした。ドイツからの短期留学生とは年齢が近いこともあり、会話しやすくとても仲良くなることができました。お互いの国の文化について話したり、一緒に折り紙をしたり、二人でご飯食べたりお互いの境遇が同じだからこそ分かり合える部分が多く助け合い、友達よりも姉妹に近い存在になりました。

この留学が私にとって良いものになったのは間違えなくこのファミリーのおかげです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。



## 5. 埼玉親善大使として

今回私たちは、この留学期間中、「埼玉親善大使」に任命していただき、オーストラリアの現地の文化を学ぶということとともに、埼玉の魅力を伝えるといった活動をしてまいりました。

ファミリーには小川和紙のセンスと折り紙をプレゼントしました。高校の生徒にはお昼ご飯の時などに埼玉県の有名なものについて話しました。現地の人々はみな興味を持って話を聞いてくれました。自分だけが話すのではなく、クイーンズランド州やオーストラリアの常識や名物についてもたくさん教えていただきました。日本での生活は私にとって当たり前のもので、伝えるのがとても難しかったです。中には現地の人々には理解してもらえない習慣などもありました。埼玉親善大使としての行動で私自身の世界が広がり、大きく成長できました。

## 6. さいごに

私はオーストラリアに生息する特徴的な動物やそれらの動物が暮らす環境に興味があり、今回のプログラムに応募しました。大丈夫とは言ったものの初めての海外で家族と離れて暮らす経験も初めてだったので、少しだけ不安がありました。しかし、現地ではファミリーや同じ親善大使のメンバーが気にかけてくれたおかげで不安が解消され、オーストラリアでの貴重な生活を楽しむことができました。

私はオーストラリアと日本の渡り鳥である『オオジシギ』という鳥を自分と重ねて今回クイーンズランド州で生活しました。オーストラリアの環境にも適応し、日本の環境にも適応し、どち

らの常識も理解して架け橋になるそんな人になりたいという思いで出国しました。Yeppoon では人の温かさに触れ、多くの人に助けられました。色々な人と会話をして今まで知らなかった新しい自分が見つかったそんな留学でした。

今の私はまだ日本よりの『オオジシギ』かもしれないけど、しっかりオーストラリアの教訓も持っていると思います。完璧な『オオジシギ』ではなくても、それも個性なのかなと思っています。この考えを教えてくれたのは間違えなくクイーンズランド州で出会った人々です。これからも『オオジシギ』として日本とオーストラリアの架け橋により近づける様に努力して参りたいと思います。

このような機会を設けてくださったことに、改めて感謝申し上げます。

